

## 【第12期理事会第2回会議議事録】(抄)

日時：2021年5月27日(金)15:00-16:00

場所：東京大学東洋文化研究所会議室+Webex オンライン開催

出席：〔理事〕赤松美和子、家永真幸、大東和重、小笠原欣幸、何義麟、上水流久彦、川上桃子、川島真、北波道子、佐藤幸人、垂水千恵、富田哲、福田円、松岡格、松田康博、三尾裕子、三澤真美恵、山崎直也、林初梅

〔会計監査〕張士陽

〔名誉理事長〕下村作次郎、春山明哲、若林正丈

欠席：浅野豊美、河原功、黄英哲、洪郁如、駒込武、澤井律之、清水麗、山口守、やまだあつし

委任状：松本充豊、宮岡真央子、星名宏修

主宰：松田康博(理事長)

書記：五十嵐隆幸(幹事)

理事会の議事に先立ち、大会実行委員長の福田円会員より、実行委員長挨拶があった。

### 【報告】

#### 1. 理事長・事務局

##### (1) 松田理事長

- ・ 第24回学術大会の開催方式については、新型コロナウイルスの感染状況、開催校の状況などに鑑み、ハイフレックス方式での開催を決定することにした。
- ・ 来年度の学術大会は、今回の成果を踏まえて開催方式など慎重に検討する。
- ・ 新設の日本台湾学会学術賞については、選考委員長を山口守会員に依頼し、選考委員は近藤正己、佐藤幸人、三尾裕子、若林正丈会員の5名体制で選考を進める。
- ・ 日本台湾学会賞の選考委員については、現在調整中である。

##### (2) 川上事務局担当理事

下記の通り、2022年5月現在の会員現況について報告がなされた。

- ・ 494名(一般会員420名、学生会員63名、シニア会員11名)、賛助会員8件

#### 2. 各業務担当

##### (1) 川上総務担当理事

事務局のパソコンが老朽化したため更新を予定している旨が報告された。細部は議題(2022年度予算案)において、会計財務担当理事より説明された。

##### (2) 山崎会計財務担当理事

- 2021年度決算および会計監査について報告がなされた。張士陽会員、伊藤信悟会員による監査が行われ、適正に運用されていることが確認された。
- 第12期第3回常任理事会以降の主な収支について報告がなされた。
- 学会費のクレジットカード払いの準備状況について報告がなされた。6月1日から運用を開始する予定である。
- 2021年度の会費納入状況(5月20日付)について報告がなされた。

##### (3) 松金編集委員長

学会誌の編集状況について報告がなされた。第24号では、第23回学術大会のシンポジウムにおける基調講演などのほか、10本の投稿のうち6本が採用され、書評10本とエッセイ1本が掲載される予定である。

##### (4) 富田企画委員長

第 24 回学術大会の報告募集状況について報告がなされた。

(5) 福田広報担当理事

学会ホームページおよび学会ブログの運営状況、メーリングリスト登録状況、ウェブサイトリニューアルの準備状況について報告がなされた。

(6) 洪目録担当理事(代理報告:赤松理事)

常任理事会の協議において廃止が決まった。これまで蓄積されてきた目録の取り扱いについて、日本台湾交流協会と調整を進めている。

(7) 菅野国際交流担当理事

配付資料にもとづき、対外発信プロジェクト(学会賞論文の英訳支援)、IJTS 誌への書評推薦、WCTS への派遣、JCASA ニュースレターへの原稿提出について報告がなされた。

(8) 定例研究会担当(関東、関西、台北)

- 関東 : 担当理事の松岡格会員より、全 3 回の定例研究会がオンラインで開催されたことが報告された。今年度の開催にあたっては状況に応じて適宜検討する。
- 関西 : 担当理事の北波会員より、研究大会が 2021 年 12 月 18 日にキャンパスプラザ京都にて開催されたことが報告された。2022 年度は、12 月 17 日に関西大学梅田キャンパスにおいてハイブリッド開催を予定している。その際、関西部会 20 周年企画を予定している。
- 台北 : 担当幹事の田島真弓会員(代理報告:川上理事)より、全 4 回の定例研究会が開催されたことが報告された。そのうち 3 回は国立台湾大学台湾文学研究所、1 回は国立台北教育大学で実施した。うち一回は、新たな試みとして、修士論文を発表する場とした。

3. その他

特になし。

**議題**

1. 2021 年度決算案について

(1) 決算案について(山崎理事)

配布資料のとおり決算案が示された。純収入 2,414,775 円、純支出 2,989,253 円、赤字 574,478 円である。収入については、冨田会員の尽力で台湾在住会員からの会費納入率が上がった。2021 年度については赤字が改善され、効率的に運営された。

(2) 会計監査について(張会計監査)

会計監査担当の張士陽会員より、2021 会計年度の日本台湾学会「会計報告書」および関連資料の監査を行い、これらが適正に表示されていることを確認した旨が報告された。以上を受け、2021 年度の決算案は満場異議なく承認された。

2. 第 24 回学術大会予算案について(福田大会実行委員長)

配布資料のとおり学術大会予算案が示され、満場異議なく承認された。

3. 2022 年度予算案について(山崎理事)

配布資料のとおり 2022 年度予算案が示された。事務局の PC とプリンターの更新に伴い、事務用品費を 1 万円から 16 万円へ増額、会議費はオンライン開催が増えたので減額、2022 年度は理事選挙を予定しているため、選挙費用として 200,000 円を計上した。学会費クレジットカード支払いの初期費用として 11 万円、クレジットカード払い時の決済手数料として、1 万円を計上した。予算案では 0 円となっていた関西部会開催補助費を 3 万円計上した。以上を受け、2022 年度の予算案は修正 1 件で満場異議なく承認された。

4. 会計監査の選任について(川上理事)

張士陽会員の任期満了につき、2022 年度は張文書会員を会計監査として推薦する旨が報告

された。会計監査の推薦は満場異議なく承認され、総会にかけることが決まった。

5. 日本台湾学会ロゴの選定について(松田理事長、赤松理事)
  - 松田理事長より、日本台湾学会ロゴの作成に至る経緯について説明がなされた。
  - 赤松理事より、ロゴ選定および使用規定細則について説明がなされた。ロゴ関連について満場異議なく承認され、総会での承認後、使用開始となることが決まった。
6. 日本台湾学会文書保存細則(案)について(川上理事)
  - 個人情報保護の観点から、文書保存細則(案)を制定する旨について説明がなされた。
7. 第 25 回学術大会開催校と日時について(松田理事長)
  - 報告事項に繰り上げ(開催方式等を含めて調整中)
8. 総会議案
  - 第 12 期第 2 回会員総会(5 月 28 日)の議案について、満場異議なく承認された。
9. 会員の入退会、シニア会員について(川上理事)
  - 新規入会(5 名)、退会(4 名)、一般会員からシニア会員への移行(1 名)の申請があり、承認された。
10. その他
  - 特になし。

以上